

## 自転車利用環境向上の方針・具体的な施策（案）

### 1. 基本的な考え方と基本目標

本計画において、自転車を優れた交通手段の一つとして、利用の促進を図ります。

日々の暮らしにおいては、自転車の交通利便性を高めることで利用者の安全性や健康増進を図るとともに、環境負荷の少ない移動手段としてSDGsに貢献していきます。

また、来訪者も多いりんりんロードを最大限活用し、自転車での市内周遊による地域振興やまちの魅力の向上を図ります。特に、本市の最上位計画である総合計画において重点的に取り組む「ヤマザクラ」による観光推進や美しい景観形成に寄与していきます。

そこで、本計画のテーマを「**自転車で行く りんりんロードと桜源郷**」とします。



基本的な考え方を踏まえ、本計画における3つの目標は以下のとおりです。

#### 目標1 市の魅力向上とレクリエーションの充実

ヤマザクラを含めた四季折々の風景や歴史的建造物等の地域資源に、自転車で立ち寄ってもらえるようなレクリエーション等の充実を図るとともに、地域資源の魅力を高めていく取組を推進します。

#### 目標2 りんりんロードを活用した快適な通行環境の整備

りんりんロードを核とした自転車ネットワークの充実と自転車拠点の強化を図り、安全・安心でわかりやすい自転車通行環境の整備を推進します。また、近隣市町等との広域連携も図ります。

#### 目標3 安全で身近な交通手段としての利用促進

交通手段としての位置づけをより高めていくため、自転車利用時におけるルールやマナーの啓発を進めるとともに、自転車とふれあう機会を創出します。また、公共交通との連携や災害時対策を含め、自転車利用の拡大を検討していきます。

## 2. 施策体系（案）とその内容

基本目標の実現に向けた施策は以下のとおりです。



目標の実現に向けた施策は以下のとおりです。各施策の指標は、基本的に単年度で把握しますが、3年間、あるいは計画期間である10年間において評価を行い、随時見直します。

## 目標1 市の魅力向上とレクリエーションの充実

### 施策① サイクリングマップ作成による市内周遊の促進

サイクリストから、観光や食事等を目的として立ち寄りスポットや周遊ルートの情報提供が求められています。歴史的建造物や良好な景色を楽しめる場所など、市内の見どころ紹介を含めたサイクリングマップを検討し、市内交流人口の拡大や地域振興を図ります。

指標：サイクリングマップの作成 [3年間]

### 施策② 総合的な情報発信の強化

市民のりんりんロード利用やサイクリストによる市内周遊の普及が進んでいない状況です。また、市内の観光客数は周辺市町等比べて少ない状況にあります。サイクリングマップ作成や現地での看板設置のほか、市やつくば霞ヶ浦りんりんロードのホームページ、SNS、イベント等を活用し、市内サイクリングの情報を広く周知するとともに、発信内容の統一にも配慮し、総合的な情報発信の強化を図ります。

指標：HP・SNSによる情報発信回数 ○回/年 ⇒ ○回/年 [3年間]  
観光入込客数 約18万人/年 ⇒ 約○万人/年 [10年間]

### 施策③ 四季折々の体験と連携したイベントの充実

市内沿道は、筑波山等の山並みや沿道に広がる田園風景を楽しみながら通行できる空間が多くあります。さらなる賑わい空間づくりや交流人口の拡大のため、沿道でのそば打ちや稲刈り、フォトスポット設置等の四季折々の体験イベントを充実させ、自転車と地域資源の連携を図ります。

指標：イベントの実施回数 ○件 ⇒ ○件 [3年間]

#### 施策④ レンタサイクルの充実

現在、レンタサイクルは岩瀬駅前の一箇所で開催しており、市内で自転車を乗り捨てできない状況であるとともに、利用者の多い時期は台数が不足することもあります。市内レンタサイクル拠点の拡充を検討し、より柔軟にレンタサイクルを利用できる環境づくりを推進します。

指標：レンタサイクル拠点 1箇所 ⇒ ○箇所 [10年間]

#### 施策⑤ サイクリングによる健康づくりの促進

市民の健康意識は低くない状況ではありますが、健康づくりに自転車が有用であることを啓発するとともに自転車を利用しやすい環境づくりを進め、市民の行動変容を促し、自転車による健康づくりを促進します。

指標：休日に自転車を利用している人の割合 17%※ ⇒ ○% [10年間]

※R4年度実施の住民アンケートにおいて「休日のたびに利用する」・「月に数回利用する」割合

## 目標2 りんりんロードを活用した快適な通行環境の整備

#### 施策⑥ サイクル拠点の強化

本市には、サイクリングの発着場所となる岩瀬駅やりんりんロードの各休憩所、サイクリング中の休憩や自転車の修理等に利用しやすいサイクルサポートステーション等のサイクル拠点があります。しかし、拠点の周知が不足しており、あまり利用されていない状況です。情報発信のほか、サイクル拠点を見える化する取組を推進します。

指標：サイクルサポートステーションの認知度・利用率※ 35% ⇒ 50% [10年間]

※R4年度実施のサイクリストアンケートにおいて「知っていて利用したことがある」割合

#### 施策⑦ サイクリスト受け入れ環境の充実（サイン案内・駐車スペース等）

本市を訪れるサイクリストは、市内のりんりんロード休憩所等に自動車を駐車し、そこで自転車を組み立てて利用する方が多くいます。来訪者の多い休日には、駐車スペースが不足する事態も生じている状況です。より多くのサイクリストを市内に受け入れ地域振興を図るため、駐車や自転車を組み立てるスぺ

一スの確保を進めます。

また、自転車の出発地点から自転車ルートや市内観光に誘導するため、サイン案内等の充実を図ります。また、サイン案内等は、本市の自然景観に配慮したデザインを検討します。

指標 岩瀬駅でのサイン案内等の設置 [3年間]  
サイクリストの駐車スペース ○箇所 ⇒ ○箇所 [3年間]

#### 施策⑧ 広域連携や地域振興を見据えた自転車通行空間の整備推進

自転車ネットワーク計画に基づき、自動車や歩行者とすみ分けされるなど、安全に快適な自転車通行空間の整備を推進します。また、県や近隣市町においても自転車利用環境の向上に力を入れており、本市周辺の自転車ルート等との連続性に配慮するとともに、本市の地域振興につなげていきます。

指標：自転車通行空間の整備率（延長） 0%(0km) ⇒ 100%(○km) [10年間]

#### 施策⑨ 地域住民と連携した維持管理の促進

りんりんロード沿道などの自転車が通る道の維持管理において、地域住民と連携した取組を推進します。地域と協力することで、サイクリストの受け入れ環境の充実や市民の自転車利用の促進を図ります。

指標：協力団体 ○団体 ⇒ ○団体 [3年間]

### 目標3 安全で身近な交通手段としての利用促進

#### 施策⑩ 自転車通学の安全対策強化

本市では、中学生や高校生だけではなく、一部の地域では小学生も自転車で通学しています。小中学校において統合が進む中、さらなる自転車通学のニーズが想定されることから、自転車通学路の検討とともにその安全対策の強化を図ります。

指標：自転車通学路の通行環境整備箇所数 0箇所 ⇒ 3箇所 [10年間]

### 施策⑪ 乗り方教室の開催による自転車とのふれあい促進

市内の自転車に関連するイベントやレクリエーションは限られている状況です。子ども等が自転車にふれあい、安全・安心に自転車を利用できるよう、自転車の乗り方教室などの開催を検討し、自転車とのふれあい環境づくりを進めます。

指標：自転車とのふれあい環境づくり ○回 ⇒ ○回 [3年間]

### 施策⑫ 交通安全の周知強化

自転車を安全・安心に利用するため、交通ルールの周知や交通マナーの向上、自動車ドライバーの自転車への配慮等が求められており、市民においては、自転車利用時のヘルメット利用率が低い状況です。また、令和5年4月から、自転車利用時のヘルメット着用が年齢を問わず努力義務化されます。

これらの状況を踏まえ、自転車の交通ルールや交通マナーの啓発を進めるとともに、多様な角度からの交通安全運動を推進します。

指標：自転車の交通安全に関する新たな取組 0件 ⇒ 1件 [3年間]

### 施策⑬ 自転車損害賠償責任保険等の加入促進

茨城県交通安全条例の改正により、自転車損害賠償責任保険等への加入が努力義務化されていますが、市民の保険加入の割合は、住民アンケートによると4割にとどまっています。保険の加入をきっかけに、事故や危険運転への意識づけを期待することから、自転車損害賠償責任保険等への加入を促進します。

指標：自転車損害賠償保険等加入の啓発の取組 ○件 ⇒ ○件 [3年間]

### 施策⑭ 公共交通との連携強化（シェアサイクルの検討含む）

本市は広く、公共交通を利用できる鉄道駅やバス停が必ずしも居住地近くに分布している状況ではないため、公共交通の利用が不便になっている地域があります。このような地域で自転車が移動手段として活用できるよう、電車やバスなどの公共交通との連携強化を検討します。

指標 駐輪場の設置  
シェアサイクルの設置検討 [10年間]

## 施策⑮ 災害時における自転車の活用

災害時には、障害物により通行困難な道路や段差の発生が想定され、自転車の有用性が高まります。市においては被害状況の確認等で自転車の活用を検討していますが、市民に対しても自転車の有する機動性が災害時に役立つことへの啓発を図ります。

また、市においては災害時に迅速・的確な災害対応ができるよう、ノーパンク自転車の活用や自転車の配置・メンテナンスの検討を進めます。

指標：非常時用の自転車配置数 ○台 ⇒ ○台 [10年間]

施策のロードマップ

(段階的整備のイメージ)